

別紙2 様式1様式2
橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	035° 38' 19.4"	橋梁ID
上地藏橋	新倉1号線	芦倉字新倉丙地内	138° 23' 16.48"	経度		35.63872.138.38791
カミジノウハシ						
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
南アルプス市役所 道路整備課	2022.7.28	河川	有	一般道	該当無	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
応急措置後に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅰ					
主桁						
横桁						
床版						
下部構造	Ⅰ					
支承部						
その他	Ⅱ	路面の凹凸	写真1、橋面			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)	
定期点検時に記録	
(判定区分)(所見等)	
Ⅰ	路面の凹凸は最大48mm程度確認できおり、走行性・安全性の観点より早期に対応されたい。 その他警備な損傷が複数個所見られるが、いづれも構造安全性に関わる損傷ではないことより経過観察でよいと判断する。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)			
架設年次	橋長	幅員	起点側
1975	4m	3.75m	
橋梁形式			
単純RC床版橋			
			終点側

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2 様式1 様式2
状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他【判定区分：Ⅱ】		
	写真1、橋面	

*損傷部の色区分を以下に示す。
青字：H29年度点検時
赤字：R4年度点検時

橋梁番号：30060302

上地蔵橋損傷図

損傷の凡例

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		豆板・空洞	
剥 離		すりへり・侵食	
鉄筋露出		漏 水	
遊離石灰		その他	

注) 口内は、写真番号を示す。
この図面は正式な一般図をもとに作成されて
いないため、寸法形状は現橋との誤差がある。

A 1 橋台

起点側



下流側

上流側

24 橋台(縦壁)
変形・欠損 B

21 橋台

剥離・鉄筋露出 c(A)

26 橋台(縦壁)
変形・欠損 B

23 橋台

剥離・鉄筋露出 c(A)

終点側



上流側

下流側

A 2 橋台

橋 面

8 地覆
変形・欠損 B

7 地覆

変形・欠損 c(A)

15 16 舗装
路面の凹凸 M

13 14 舗装

路面の凹凸 e(W)



工

起点側

終点側

桁 下 面

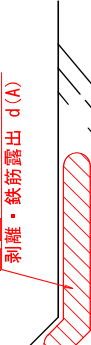
9 10 11 地覆

剥離・鉄筋露出 B

変形・欠損 B

8 9 主桁

剥離・鉄筋露出 d(A)



起点側

終点側

(A1)

(A1)

(A2)

河川流下方向

河川流下方向

別紙2 様式1様式2
橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	035° 38' 18.13"	橋梁ID	
下地蔵橋	新倉2号線	芦倉字新倉丙地内		経度	138° 23' 16.56"	35.63837,138.38793	
シモジザウハシ							
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
南アルプス市役所 道路整備課	2022.7.28	河川	有	一般道	該当無		

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)							定期点検者
定期点検時に記録							応急措置後に記録
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日	
上部構造	Ⅰ						
主桁							
横桁							
床版							
下部構造	Ⅰ						
支承部							
その他	Ⅱ	路面の凹凸	写真1, A2背面				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)	
定期点検時に記録	
(判定区分)(所見等)	
Ⅰ	路面の凹凸が著しく、縦断勾配も大きいことより、走行性・安全性確保のため、早期に対応することが望ましい。 主桁は鉄筋露出が見られるものの、かぶり内側の付着切れもないことから、経過観察でよいと判断する。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)			
架設年次	橋長	幅員	起点側
1965	3m	4.33m	
橋梁形式			
単純RC床版橋			
			終点側

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2 様式1 様式2
状況写真(損傷状況)

様式2

- 部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
- 写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他【判定区分：Ⅱ】	
	
	写真1, A2背面

*損傷部の色区分を以下に示す。
青字：H29年度点検時
赤字：R4年度点検時

橋梁番号：30100301

下地蔵橋損傷図

橋 面

8 防護柵
その他（防護柵の未設置）B

8 防護柵
その他 a(A)
(損傷無し)

9 地覆
変形・欠損 B
9 地覆
変形・欠損 c(A)

13 舗装
路面の凹凸 B
13 舗装
路面の凹凸 e(M)

14 舗装
路面の凹凸 M
14 舗装
路面の凹凸 e(M)

A1

A2

河川流下方向

桁 下 面

21 主桁
剥離・鉄筋露出 B
18 主桁
剥離・鉄筋露出 d(B)

22 主桁
剥離・鉄筋露出 B
19 主桁
剥離・鉄筋露出 d(A)

起点側

終点側

A1

A2

河川流下方向

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ	へ	豆板・空洞	豆
剥 離	○	すりへり・侵食	斜
鉄筋露出	鉄	漏 水	水
遊離石灰	遊	その他	○

注) 口内は、写真番号を示す。
この図面は正式な一般図をもとに作成されて
いないため、寸法形状は現橋との誤差がある。

A 1 橋台



※ 特に損傷は見られない

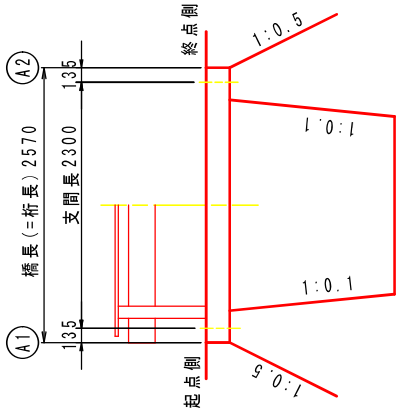
A 2 橋台



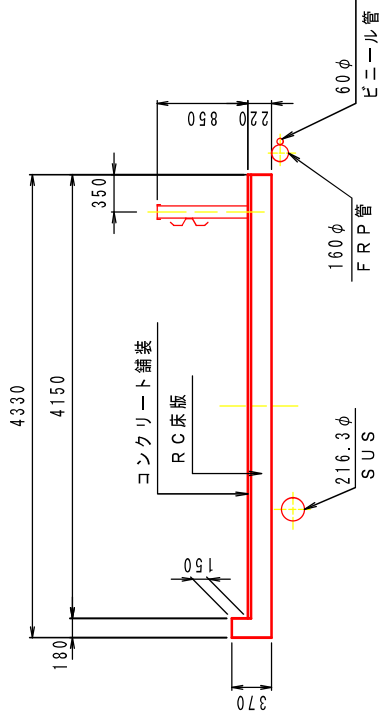
※ 特に損傷は見られない

下地蔵橋 (その1)

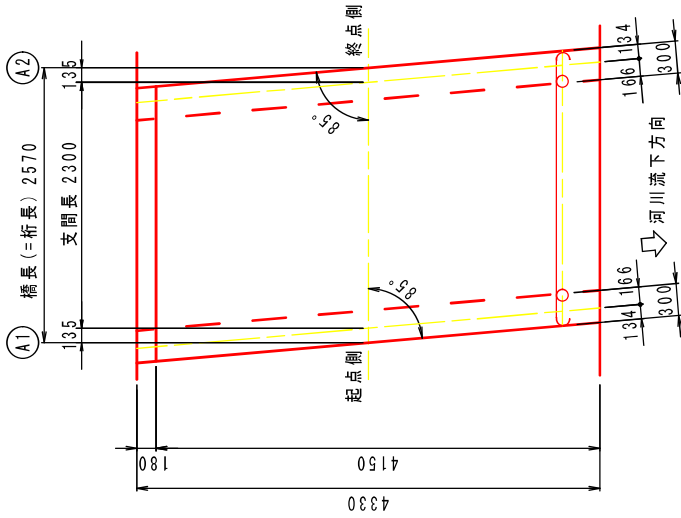
側面図 S=1:50



断面図 S=1:50



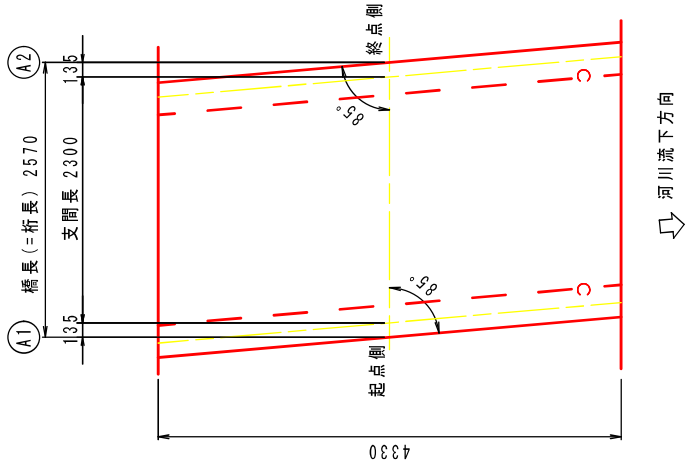
平面図 S=1:50



橋梁構造図	
整理番号	AS-0001
橋梁名称	下地蔵橋(その1)
縮尺	図示
南アルプス市橋梁台帳	

下地蔵橋（その2）

床版下面平面図 S=1:50



橋梁構造図	
整理番号	AS-0001
橋梁名称	下地蔵橋(その2)
縮尺	図示
南アルプス市橋梁台帳	